

2024年度
(第60期)

事業報告書



自 2024年 1月 1日

至 2024年12月31日



国立京都国際会館

KYOTO INTERNATIONAL CONFERENCE CENTER

目次

I 事業の概況

1. 総論	P.1
2. 催事開催状況	P.1
3. 業績	P.2
4. 2024年に開催された主な催事	P.2
5. 主な取り組み	P.5
(1) 営業力強化施策	P.5
(2) 法人運営について	P.6

II 法人の概況

1. 法人概要	P.8
2. 理事会及び評議員会等に関する事項	P.9
(1) 理事会及び役員に関する事項	P.9
(2) 評議員会及び評議員に関する事項	P.10
(3) 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項	P.11

III 法人管理	P.12~14
----------	---------

I 事業の概況

1. 総論

2024年度は、光熱費および資材費等の高止まりにより、当館の運営費・修繕費の増大が続いた。また、予定されていたニューホール拡張工事が延期されるなど当館をめぐる状況は依然厳しいものとなっている。2024年度は当初予算で8千万円の赤字、2025年度も4億円の大幅な赤字見込み(8月時点)であった。この危機感を全職員で共有し一丸となり状況を打破するため、8月には「ニューホール完成を見据えた今後3年間の取り組み強化」を打ち出した。

営業面では、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご臨席された「第27回国際昆虫学会議」など注目度の高い催事が開かれた。また、8月の「取り組み強化」を打ち出して以降、これまで開催事例の少なかったエンターテインメント系イベントも含めた企業系催事の開催も増加しつつある。

また、自主企画事業では、2023年度に開催を再開した夏のガーデンパーティー「乾杯の夕べ」を今年度も開催し、事前の申込予定数を超えた後も問合せが続くなどの好評で、当日は家族連れなど多くの来場者で賑わった。また、一般開放「OpenDay」でのアフタヌーンティー企画や、当館オリジナルグッズ販売などの数多くの新たなチャレンジにより、一般来館者数の増加、SNSでの認知拡大などの成果が見え始めた。

施設整備の面では、来たるニューホール拡張工事に向けて、開催スタイルの傾向や主催者のニーズに応える設備・機能の検討などを鋭意進めている。また、施設管理経費・修繕費が増大している状況を踏まえ、突発的な故障を防ぐ「予防保全」による設備管理、夏季の電力消費をリアルタイムでモニタリングすることによるピーク抑制など、コスト削減に努めた。

このような収入・支出両面での努力により、財務面では、当初8,000万円の赤字を見込んでいたところ、約6,000万円の黒字に転ずることができた。

2025年度は、催事開催件数の伸び悩みによる収入減、一方で修繕費を中心とした支出の高止まりなどの要因により、3.5億円の赤字を見込み、過去に例を見ない厳しい状況を迎えるが、「3年間の取り組み強化」に基づき、攻めの姿勢で邁進していく。

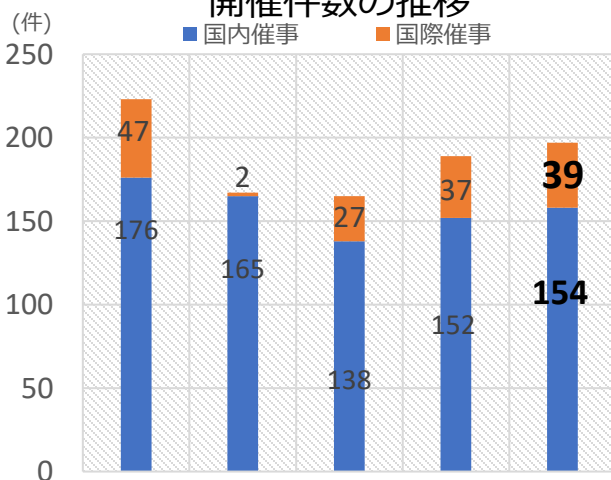
2. 催事開催状況

2024年度は、当初ニューホールの拡張工事が予定されており、ニューホール、イベントホールを売り止めていたため、開催件数も伸び悩む状況が続いていた。しかし、2023年11月に工事の延期が決定したため、売り止めに解除すると共に、積極的なセールス活動を展開した。

結果、国際会議39件、国内会議154件の計193件と、前年を上回る開催件数まで追い上げることが出来た。

また、2024年の特徴としては、参加者3,000名以上の大型催事が14件開催され、コロナ禍以降初の2桁開催となった。

開催件数の推移



	2017-19 平均	2021	2022	2023	2024
総件数	223件	167件	165件	189件	193件
大型	16件	3件	7件	9件	14件

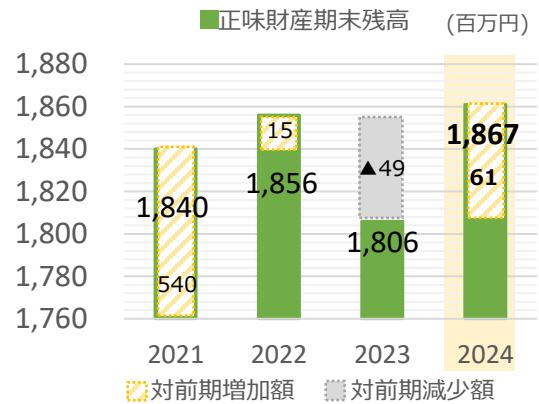
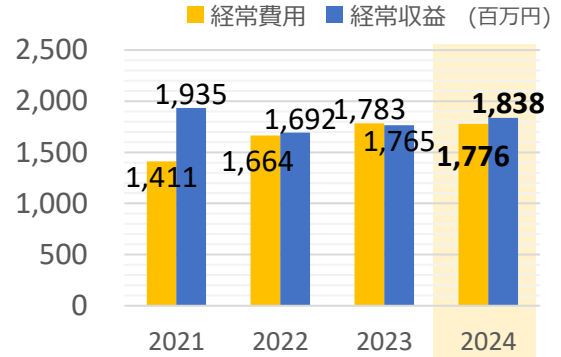
→ コロナ禍 → 「5類」移行

3. 業績

ニューホール拡張工事の延期により販売可能となったニューホール・イベントホールを中心に新規案件等の獲得に向けた営業努力の結果、売上面では1,838百万円を達成（予算比113百万円の増加）した。また、施設運営に係るコストの抑制努力などにより支出は1,776百万円（予算比29百万の減少）に留めることができた。

結果として、経常収益は前年比で73百万円の増加に対して、経常費用は前年比6百万円の減少となり、当期経常増減額は62百万円の増額となった。経常外支出等を加味した当期正味財産の増加額は61百万円となり、前年の正味財産減少分（49百万円）を上回る増加額を今期達成できた。

これにより正味財産の期末残高は1,867百万円となった。



4. 2024年に開催された主な催事

アジア太平洋肝臓学会年次総会2024京都 3月27日～3月31日	4,160名	第73回日本アレルギー学会学術大会 10月18日～10月20日	2,900名
第123回日本皮膚科学会総会 6月6日～6月9日	8,800名	第54回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 11月1日～11月3日	5,170名
第39回日本環境感染学会総会・学術集会 7月25日～7月27日	5,301名	Art Collaboration Kyoto 2024 10月31日～11月3日	5,000名
第27回国際昆虫学会議 8月25日～8月30日	4,278名	第39回京都賞 11月10日～11月11日	1,800名
第15回日中韓文化大臣会合 9月11日～9月12日	60名	第78回日本臨床眼科学会 11月14日～11月17日	8,000名
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (STSフォーラム) 第21回年次総会 10月5日～10月8日	1,400名	日ASEANヤングビジネスリーダーズサミット及び 日ASEAN Future Generationサミット 12月20日	144名
第86回日本血液学会学術集会 10月11日～10月13日	6,200名	京の高校生探究パートナーシップ事業 京都探究エキスポ 12月21日	1,200名

※参加者数は現地参加者数

2024年に開催された催事の一部ご紹介

第27回国際昆虫学会議

会 期：8月25日～30日

主 催 者：京都大学農学部総合館昆虫生態学研究室

参加者数：4,278名

参加国数：82か国

本学会は、1910年にベルギーのブリュッセルで第1回の会議が開催されて以来、ほぼ4年ごとに各国で開催されており、1980年にアジアで最初の第16回会議が京都（当館）で開催され、今大会で当館での開催は2度目であった。第27回目となる今大会は、「New Discoveries through Consilience」（知の統合によって生み出される新しい発見）をテーマとして開催され、本会議開催に合わせ、昆虫の魅力を表現した作品を募集する写真コンクールや、小中学生の絵画コンクールも開催された。

また、25日の開会式には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下もご臨席され、トンボ類とその生育環境の調査を行っている長男の悠仁さまも参加された。



開会式の様子



ロビーでは日替わりで
さまざまな文化体験を開催



閉会式にて演台で挨拶する
小野議長と組織委員会の先生方

第15回日中韓文化大臣会合

会 期：9月12日

主 催 者：文部科学省 文化庁

参加者数：60名

参加国数：3か国

本会合は、日本・中国・韓国が文化交流による相互理解を深め、三か国の文化芸術の発展を目的として、2007年より毎年持ち回りで開催されている。15回目の開催となる本会合は、文化庁移転先である京都で開催された（2017年第9回は京都迎賓館で開催）。日本からは、盛山正仁文科相（開催当時）が出席された。

大臣会合に先立って行われた大臣主催午餐会では、毎年6月に「京都新能」を京都市と共催している「京都能楽会」による「狸々しようじょう」（観世流）が上演された。また、前回の韓国・全州市で採択された宣言文書の第1に掲げられた「若い世代文化交流及び協力の強化」を踏まえ、「京都学生祭典」で誕生した創作おどりである「京炎そでふれ！京小町」（京都女子大学）も披露された。お食事には、京都らしい食材を使用した和食御膳や京都の地酒が振舞われた。

最後に、気候変動や自然災害から文化遺産を守るため連携することが盛り込まれた「京都宣言」が採択された。今後も当館の設立趣旨に沿ったこのような国際会議を積極的に誘致・開催していきたい。



日中韓文化大臣会合



会合の様子



2025年東アジア文化都市宣布式

Art Collaboration Kyoto 2024

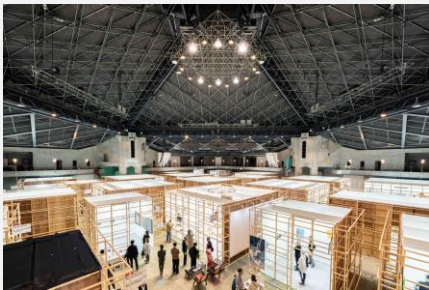
会 期：10月31日～11月3日

主 催 者：Art Collaboration Kyoto 実行委員会

参加者数：約5,000名

参加国数：10か国

Art Collaboration Kyoto (ACK) は、「コラボレーション」をコンセプトに、京都で開催する現代美術のアートフェアであり、国内と海外、行政と民間、美術とその他の領域等、様々な分野とのコラボレーションを実現し、新たな可能性を開く機会となっている。54の企業・団体をパートナーに迎え、4回目の開催となった2024年は、世界屈指の老舗ギャラリーから新進気鋭のギャラリーまで18の国・地域（24都市）から総勢69ギャラリーが一堂に会し、格子状のブースをギャラリー毎にカスタマイズしてさまざまな展示構成を展開した。また、京都市内で同時期に開催される展覧会やイベントとの連携数が大幅に増えたため、無料シャトルバスやシェアモビリティサービスを用意し、フェア会場と京都の街なかに点在する会場をエコロジカルに繋いだ。



会場の様子



VIPラウンジ



パートナー企業

京の高校生探究パートナーシップ事業 京都探究エキスポ

会 期：12月21日

主 催 者：京都府教育委員会・京都市教育委員会

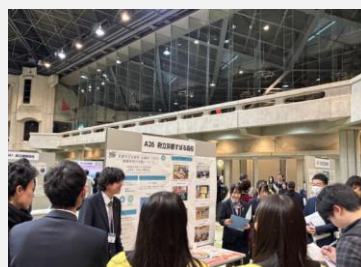
参加者数：約1,200名

参加国数：1か国

京都府立・市立高校51校の高校生が一堂に会し、探究活動の成果発表を通じて交流するイベントで、今回が初の開催となる。高校生による探究活動の成果発表のほか、東京大学 松尾 豊 教授による、学びの場における生成AIとの関わりについての講義や、高校生とのパネルディスカッションなどが実施された。このイベントは、西脇京都府知事と松井京都市長とが政策協議等を行う府市トップミーティングにおいて、高校教育について話し合われる中で実現したもの。京都府と京都市はこの取り組みを来年以降も続けたいとしている。



開会式



発表の様子



松尾教授の講演

5. 主な取り組み

(1) 営業力強化施策

国際会議・学会議の新規誘致

◆ 国際会議

2023年に引き続きIBTM（バルセロナ）、IMEX（フランクフルト）の**2つのMICE見本市に出展**。学会の国際本部や海外PCO（会議運営会社）、エーгентなどから多くの商談申込があった。その後、具体的な提案を行い、**2件の開催決定に至った**。

誘致におけるポイント

- ① **キーパーソンへのアプローチ**
- ② **開催地選定要因の情報収集**
- ③ **会場視察時の印象**



IMEXにおける商談の様子

◆ 学会議(国内医学会)

① **東京所在の事務局を中心とした定期的な訪問や、キーパーソン・PCO等へのアプローチ**を行い、**顧客のニーズを的確に掴む**ことで、最適な日程・会場等の開催計画を提案した。

② 大型医学会については、**ニューホール拡張により当館だけで全て収容できるようになり、提案力が高まる**だけでなく、主催者にとっての**開催経費削減に繋がる**。そのため、『入札』方式で開催地選定する案件については、2028年以降開催分の入札参加数を増やすべく積極的に誘致活動を行い、**2年連続開催の大型医学会の受注に成功した**。

⇒「◆国際会議」「◆学会議」の新規誘致は、**52件を受注**した。
(2026年～2031年開催催事が主なターゲット)

企業・団体・エーгентへの新規営業

◆ 企業等への営業強化

4月に「**戦略誘致グループ**」を**発足**、これまで注力できていなかった、いわゆる「**外回り**」営業を強化。顧客先への訪問を活発にし、関係構築や開催検討情報の収集を強めた。

中でも、ニューホール拡張工事の延期により販売できるようになった期間について、**リードタイムが比較的短いエンターテイメント分野等に注力**し、当年中の開催につながるものもあった。



エンターテイメント系イベント開催の様子

◆ セールスにおけるSNSの活用

イベント業界で会場選定・企画に携わる方など顧客になり得るSNSユーザーを対象に広告動画を配信し、89,000インプレッション(※)を達成し多くのターゲットにリーチすることができた。

※インプレッション・・・SNSにおいて、投稿や広告がプラットフォーム上のSNSユーザーの目に触れた回数

丁寧な開催サポートと提案営業の強化

新規催事獲得による収入増と併せて、既に開催決定済みの催事についても、契約時点の見積金額よりも売上が増える催事があった。

この要因としては、想定よりも参加者数が増加した催事では、**規模の大きい会場への変更や使用会場数の増加**を検討され、会場費・付帯設備費の売上増額に繋がったことが挙げられる。ご契約から開催当日まで、**綿密な打合せを通じて、より充実した開催に繋がる様々なご提案**ができるよう努めている。

(2) 法人運営について

SNS発信や各種メディアでの露出増加

当館での自主企画Instagram、X(旧Twitter)での発信を継続・充実させている。タグ付けや、画像・動画を効果的に活用し、**より多くのユーザーにリーチするよう発信内容を工夫した。**

Instagram

フォロワーは年度初め時点の約3,000ユーザーから年度末までに**約70%増加の5,500ユーザー**へ。

X

当館**建築・調度品に関するポストのインプレッション数が高い**傾向にあり、ユーザーからの関心の高さが見えた。

新聞記事掲載

地元紙を中心とした新聞各社にも、各種の取り組みを記事掲載いただいた。

各種メディアでの積極的な発信に引き続き注力していく。



フォロワーの関心を引くよう
投稿に工夫を凝らしている

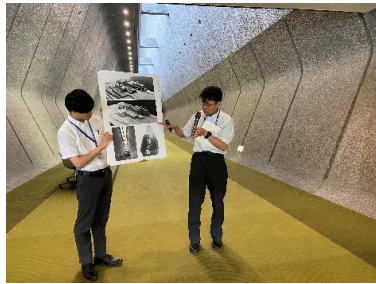
自主企画イベントの企画拡大

● 乾杯の夕べ



「子ども縁日」の拡大や打ち上げ花火の充実等により、家族連れをはじめとした多くの来場者の方から好評を得た。なお、来場者数は2日間で約3,800名となった。

● 館内見学ツアー



「京都モダン建築祭」に合わせて行った見学ツアーでは、当館の歴史や過去の催事エピソードを交えるなど、参加者のニーズに合った見学ツアーを実施し、好評を得た。

● OpenDay



季節に合わせたアフタヌーンティー企画や、ヨガ教室の開催、レストランでのジャズピアノ演奏等の様々なチャレンジを試み、京都国際会議場の魅力を発信した。

オリジナルグッズ企画・制作

当館オリジナルグッズの企画・制作を当館の行った。若手職員が中心となり、制作するグッズの検討、建築図面や設計当時のラフスケッチをあしらったデザインの考案を行い、商品化までたどり着いた。

「OpenDay」や見学ツアー等の際に販売している。



中長期保全計画に基づく修繕等の実施

館全体の財務状況を考慮し、年度において実施すべき修繕の**優先順位などを精査しながら実施**した。また、日常的な丁寧なメンテナンスが奏功し、大規模な**突発的修繕の発生を防ぐことができた**ため、施設管理に係る支出を抑えることができた。今後も、日々の点検やメンテナンスを行う「予防保全」の考え方を重視した「中長期保全計画」の見直しおよび効率的な実施により、施設管理に係る適切な予算確保・費用執行に努めていきたい。



エネルギー効率の高い施設運営を追求

BEMS(ビルエネルギー・マネジメントシステム)を活用し、**電力・ガスなどのエネルギー使用状況をモニタリング**。需要の傾向を把握・分析し、エネルギー効率の高い施設管理に努めている。

特に**電力需要の大きい夏季は、会館事務局のみならず職員や常駐の登録事業者においても電力使用抑制を徹底**し、契約電力量の範囲内に留めることができた。

最新技術で主催者の要望に応える

最新技術にアップデートし、顧客のニーズに応えるとともに、他施設との競争力を高めた。

●館内パブリックWi-Fiの整備

2024年-2025年の2か年で進めている。

同時接続可能台数・通信速度とも約2倍に(アンテナ1台あたり)

⇒通信キャパシティが倍増し、来館者の多い**大型催事でも快適な通信環境を提供可能に**。



●メインホールの常設プロジェクターをアップデート

2025年度早期の更新に向け、入札等の準備を進めた。

フルHD程度から4K画質へ ⇒企業式典などにおける**多彩な演出に対応**
12,000lmから、30,000lmへ ⇒学会等での**より高精細な映像投影**を実現

コラム

快適な空間を職員自らの手作業で保全・改良

大規模な設備修繕については、数年にわたる計画・実施と遂行するものある一方、特に**主催者・来館者の目に触れる箇所やサービスの質向上に直結するもの**については、積極的に整備を進めている。傷んだ備品・内装の修復・交換については、外注ありきでなく**職員自らの手作業で行うことで、費用を大幅に抑えながらすばやく作業を完了できたもの**が数十か所あった。



経年劣化により状態不良だった館内手摺を職員の手作業で修復

II 法人の概況

1. 法人概要

(1) 設立年月日

財団設立 1966年（昭和41年）1月31日

開館 1966年（昭和41年）5月21日

公益法人への移行 2011年（平成23年）3月25日

(2) 定款に定める目的

国有の会議場施設の管理の委託等に関する特別措置法に基づき管理の委託を受けた国有の会議場施設を適切に管理し、効率的に運用することにより、国際相互理解を促進し、学術、科学技術、文化等の振興及び地球環境の保全等に寄与することを目的とします。

(3) 定款に定める事業内容

- 1) 政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致及び運営事業
- 2) 国際交流と日本文化の普及事業
- 3) 国立京都国際会館の施設管理事業
- 4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(4) 所轄官庁に関する事項

内閣府

(5) 主たる事務所・従たる事務所の状況

主たる事務所：京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地

従たる事務所：東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル419

2.理事会及び評議員会等に関する事項

(1) 理事会及び役員に関する事項

①理事会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第119回理事会	2024年3月5日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room C-2	第1号議案 2023年度事業報告書（案）及び決算（案）の件 第2号議案 第34回評議員会開催招集の件
理事会 (書面表決)	2024年4月24日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 書面評議員会招集の件
第120回理事会	2024年12月5日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room D	第1号議案 2025年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の件

②役員の異動について

氏名	異動年月日
明石 康	2024年3月25日 重任
村田 純一	2024年3月25日 重任
内田 俊一	2024年3月25日 重任
西脇 隆俊	2024年3月25日 重任
山極 壽一	2024年3月25日 重任
松井 孝治	2024年3月25日 新任
門川 大作	2024年2月24日 退任
塚本 能交	2024年3月25日 重任 2024年12月31日 退任

③役員氏名

※理事長、副理事長、常任理事、理事、監事の順に五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	明石 康	理事	堀木 エリ子
副理事長	村田 純一	理事	堀場 厚
常任理事	内田 俊一	理事	松井 孝治
理事	上村 多恵子	理事	湊 長博
理事	塚本 稔	理事	山極 壽一
理事	西脇 隆俊	監事	高津 靖史
理事	藤崎 一郎	監事	彦惣 弘

理事長1名、副理事長1名、常任理事1名、理事9名、監事2名（2024年12月末日現在）

(2) 評議員会及び評議員に関する事項

①評議員会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第34回評議員会	2024年3月25日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room D	第1号議案 理事選任の件 第2号議案 評議員選任の件 第3号議案 2023年事業報告書及び 決算（案）の件 第4号議案 役員および評議員の報酬等並び に費用に関する規程の改定の件
評議員会 (書面表決)	2024年6月4日	第1号議案 鈴木一弥氏の評議員選任の件 第2号議案 鈴木一弥氏の役員等候補選出 委員選任の件

②評議員の異動について

氏名	異動年月日
蒲生 篤実	2024年3月25日 新任
鈴木 一弥	2024年6月4日 新任
山下 晃正	2024年3月22日 退任
清野 智	2024年3月25日 退任
井上 正幸	2024年9月19日 退任

③評議員名簿

※五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員	阿南 史代	評議員	酒井 伸一
評議員	池坊 専好	評議員	鈴木 一弥
評議員	石毛 博行	評議員	千 容子
評議員	岩井 一宏	評議員	手嶋 龍一
評議員	内田 隆	評議員	寺島 実郎
評議員	内海 善雄	評議員	中尾 一和
評議員	岡田 憲和	評議員	服部 重彦
評議員	小倉 和夫	評議員	百嶋 計
評議員	柏原 康夫	評議員	廣瀬 茂夫
評議員	蒲生 篤実	評議員	三木町 宣行
評議員	久保 俊一	評議員	吉村 彰彦
評議員	齊藤 修		

評議員23名（2024年12月末日現在）

(3) 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項

①役員等候補選出委員会

区分	日時・場所	会議の目的事項
第16回役員等候補選出委員会	2024年1月30日 午前11時～午前12時 当館Room C-1	議案① 理事候補選出の件 議案② 評議員候補者選出の件
役員等候補選出委員会 (書面表決)	2024年2月15日	理事候補者選出の件
役員等候補選出委員会 (書面表決)	2024年4月18日	評議員候補者選出の件

②委員の異動について

氏名	異動年月日
鈴木 一弥	2024年6月4日 新任
山下 晃正	2023年3月22日 退任
井上 正幸	2024年9月19日 退任

③委員氏名

※五十音順

役職名	氏名
委員	池坊 専好
委員	岡田 憲和
委員	齊藤 修
委員	鈴木 一弥
委員	服部 重彦
委員	吉村 彰彦

委員6名（2024年12月末日現在）

Ⅲ 法人管理

公益1：政府または政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致、運営及び会議場施設の管理に関する事業

2024年度開催件数：106件（内訳：国内75件、国際31件）

秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご出席された「第27回国際昆虫学会議」など注目度の高い催事が多数開催された。

海外見本市への積極的な出展や、顧客のニーズを的確に掴み最適な日程・会場を提案することを重視した誘致活動の展開、また「入札」方式で開催地選定する学会等にも積極的に入札参加するなど多角的なセールス活動を推進した。

収益1：公益目的事業に該当しないその他の催事に関する事業

2024年度開催件数：87件（内訳：国内79件、国際8件）

これまで開催実績の少なかった、音楽グループのオフラインイベントや、アニメ・スマホゲームのファンイベントなどといったエンターテインメント系催事をはじめとした企業系イベントの開催が目立った。

収益2：飲食・宿泊および売店に関する事業

会議参加者の利便性向上のため飲食店舗、宴会場及び宿泊施設を当会館内に設置し、運営委託事業者と連携し、効率的な事業推進に努めている。

収益3：有料駐車場及び地下鉄連絡通路広告に関する事業

会館利用者のための有料駐車場や、会議参加者のための地下連絡通路の広告掲載スペース枠の収入を得て、施設の維持管理費用の一部を賄っている。

収益4：国際交流と日本文化の普及に関する事業

自主企画として、昨年で開催復活した「乾杯の夕べ」を2024年度も開催。事前の申込が予定数を超えた後も問合せが続くなどの好評で、当日は家族連れなど多くの来場者で賑わった。また、春・秋に開催した「宝松庵茶会」の内、秋の開催では、400名を超える参加があった。

正味財産

(1) 指定正味財産

① 設立時基本財産

(単位：円)

区分	金額	摘要
満期保有目的債券	100,000,000	
定期預金	257,950,000	
計	375,950,000	

※寄付者の詳細は以下 (ア) ~ (イ) の通りである。

(単位：円)

寄付者名	金額
(ア) 地方公共団体	60,000,000
(イ) 民間団体等	315,950,000
計	375,950,000

(ア) 地方公共団体

(単位：円)

寄付者名	金額
京都市	30,000,000
京都府	10,000,000
大阪市	7,500,000
大阪府	5,000,000
神戸市	2,500,000
兵庫県	1,000,000
滋賀県	1,000,000
奈良県	1,000,000
大津市	500,000
奈良市	500,000
和歌山県	500,000
和歌山市	500,000
計	60,000,000

(イ) 民間団体等

(単位：円)

寄付者名	金額	寄付者名	金額	寄付者名	金額
関西電力(株)	30,000,000	(株)島津製作所	2,000,000	中央信託銀行(株)	500,000
大阪瓦斯(株)	20,000,000	日本電池(株)	2,000,000	(株)国際観光会館	500,000
松下電器産業(株)	20,000,000	(財)不審庵	2,000,000	(株)滋賀銀行	500,000
(株)住友銀行	15,000,000	(財)今日庵	2,000,000	(株)丸正	500,000
(株)三和銀行	15,000,000	オムロン(株)	1,500,000	(株)京都センチュリーホテル	200,000
(株)大和銀行	15,000,000	三菱信託銀行(株)	1,500,000	(株)善田昌運堂	100,000
阪急電鉄(株)	10,000,000	三井信託銀行(株)	1,500,000	奥田連峯堂	100,000
京阪電気鉄道(株)	10,000,000	住友信託銀行(株)	1,500,000	山中商会京都(株)	100,000
近畿日本鉄道(株)	10,000,000	(株)高島屋	1,500,000	(株)横山	100,000
日立造船(株)	10,000,000	帝人(株)	1,000,000	大森欣次郎	100,000
住友金属工業(株)	10,000,000	日新電機(株)	1,000,000	計	315,950,000
(株)クボタ	10,000,000	タキイ種苗(株)	1,000,000		
住友化学工業(株)	8,000,000	吉忠(株)	1,000,000		
日本生命保険(相)	8,000,000	京都信用金庫	1,000,000		
(株)大林組	5,000,000	(株)ワコール	1,000,000		
武田薬品工業(株)	5,000,000	中林仁良	1,000,000		
(株)竹中工務店	5,000,000	(株)都ホテル	1,000,000		
住友生命保険(相)	5,000,000	村田機械(株)	1,000,000		
住友電気工業(株)	5,000,000	ニチコン(株)	1,000,000		
日本板硝子(株)	5,000,000	安田信託銀行(株)	1,000,000		
旭化成工業(株)	5,000,000	東洋信託銀行(株)	1,000,000		
大成建設(株)大阪支店	5,000,000	池坊専永	750,000		
(株)京都新聞社	5,000,000	(株)京都ホテル	500,000		
宝酒造(株)	5,000,000	ヤマサン(株)	500,000		
(株)大丸	3,500,000	(株)醸造報知新聞社	500,000		
南海電気鉄道(株)	3,000,000	キンシ正宗(株)	500,000		
三洋電機(株)	3,000,000	千切屋(株)	500,000		
東洋紡績(株)	3,000,000	京料理(株)	500,000		
サントリー(株)	3,000,000	(株)千總	500,000		
阪神電気鉄道(株)	3,000,000	京都中央信用金庫	500,000		
(株)京都銀行	3,000,000	(株)藤井大丸	500,000		
月桂冠(株)	2,500,000	千吉(株)	500,000		
(株)クラレ	2,000,000	京福電気鉄道(株)	500,000		
伊藤忠商事(株)	2,000,000	荒川(株)	500,000		
丸紅(株)	2,000,000	京都青果卸売人協会	500,000		
日本新薬(株)	2,000,000	京都みやこ信用金庫	500,000		
日本レース(株)	2,000,000	(株)比叡山ホテル	500,000		
第一工業製薬(株)	2,000,000	相互タクシー(株)	500,000		